

平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果

平成 26 年 4 月に行われた全国学力・学習状況調査（6 年生対象）の結果から本校児童の概要についてご説明します。

教科では、知識・活用の平均正答率が、ともに全国・神奈川県を大きく上回っていた。また、生活習慣・学習習慣も併せて、本校児童の実態としては次のようなことが分かった。

《教科》

国語…どの観点でも全国平均を大きく上回っていたが、特に次のような様子が見られた。「話す・聞く」では、話し合いの観点に基づいて話を聞く力が十分身につけている児童が多い。また「書く」力として文のつながりを考えることができている。「読む」ことでは、情景描写の効果をしっかりと捉えて物語を読み取る力がある。一方、わかったこと・疑問に思ったことを整理して、それらを関係付けながらまとめて書くことができる児童は多くはない。また、話の表現の工夫をとらえたり、内容解釈の着眼点の違いをよりの確にとらえたりする力を今後さらに伸ばす必要がある。

算数…活用問題はどれも全国平均を大きく上回っていたが、知識問題ではいくつか全国平均にわずかに届かなかったものもある。異分母の加法については通分を理解し正確に答えを求めている児童が多い。また、作図のための図形の性質についても正しい知識を持っている児童が多い。しかし、記述式の回答には苦手意識もあるようだ。筋道を立てて論理的な記述ができるように確実な思考・判断力をしっかりつけていくことが必要と感じられた。

《生活習慣・学習習慣》

- 自己肯定感が高いが自己表現には苦手意識がある。
- 学習時間がしっかりとれている。一日 2 時間以上の児童が半数、土日は 4 時間以上が 3 割である。
- 学習課題を自ら決めて取り組み、計画的に学習する児童が多い。
- 学校生活は充実していると感じている児童が多い。
- 人の役に立つ人になりたいと考える児童が 9 割である。
- 学習の振り返りの意識がまだ十分でない。
- 文章で表現することが苦手な児童が多い。

以上のような結果が見られたが、本校児童は学習に対する意欲・関心が高く、十分な知識や応用力が備わっていると言える。これは、充実した学校生活やよい学習習慣が身につけていることの表れと捉えたい。全校で取り組んでいる朝読書の継続や学校司書の配置によって、児童は読書から得る知識をさらに深めたり、さまざまな事象に関心を広げたりしていると考えられる。

昨年度は国語の重点研で『自分の思いや考えを豊かに表現し、伝えあう子の育成』をテーマに～目的と相手意識を明確にした「話す・聞く」力の指導を通して～研究を進めてきた。26 年度の学力・学習状況調査の結果から、「話す・聞く」の観点において正答率が上がり、その力が向上したことを実感できる。今年度は『確かな言語能力を身につけ、自分の言葉で表現できる子を目指して』をテーマに取り上げている。文章で表現することや筋道を立てて説明することを苦手とする児童が多いことを受け、有効な言語活動を取り入れながら各教科の指導計画の工夫を図りたい。また、一人ひとりの児童に対する細やかな指導・支援を展開し、さらなる学力向上につなげていきたい。